総合教育センターだより

-Be Connected-

平成２６年11月17日(月)
第68号(通算第151号)
京都府総合教育センター
TEL：075-612-3266

教育相談

平成26年度上半期(4月～9月)の教育相談実施状況から

総合教育センターでは、電話･メール･来所･巡回の4つの形態で教育相談を実施しています。平成26年度4月～9月の6ヶ月の間に電話相談は約1,700件、メール相談は約50通の相談が寄せられました。来所相談ではセンター(伏見区)と北部研修所(綾部市)で専門のカウンセラーや精神科医が1,000人近い相談に応じました。巡回相談では各教育局等へ月1回程度訪問して60件以上の教育相談を行いました。

電話相談

「子育て」に関する相談が最も多く、相談件数は前年度比10％以上増加しました。母親からの相談が最も多かったです。

来所相談

来所人数が前年度比26％増加しました。「不登校」に関する相談が過半数を占めました。不登校の背景には、「友人関係」をめぐる問題、「家庭環境」の不安定さ、「親子関係」などの課題がうかがわれました。来所されたのは、小学生が最も多く、なかでも小学校中学年が増加しました。

メール相談

昨年度に引き続き、保護者からの「学校教育」に関わる相談が最も多く寄せられました。

巡回相談

「不登校」、「子育て」に関する相談や身体や行動に現れる問題についての相談が多くありました。相談機関の少ない府北部地域での需要が大きくなっています。

『各教科等を合わせた指導』の充実をめざした実践研究報告会の御案内

会場：総合教育センター
日時：12 月25 日（木）13:00～17:00

平成26年度特別支援教育に関する実践研究充実事業「自立と社会参加に向けた『各教科等を合わせた指導』の充実をめざした実践研究報告会」を開催します。

申込書(ITECに掲載)によりFAX で申込みをお願いします。
参加申込期限：平成26 年12月12日(金)

京都府の「歴史・伝統・文化」を学ぶために・教えるために

「伝統と文化を尊重」する教育基本法の理念を踏まえ、学習指導要領に基づく教育が各校種ごとに進められています。

このテキストは、京都府の未来を創造する児童生徒に対する「伝統と文化に関する教育」の充実を図るために、教職員の皆さんが「ふるさと京都」について、自ら学び、気付き、研修を深める際の一助となるべく作成しました。

このテキストが一つの手引きとして、世界で活躍する児童生徒を育てるために、そして、私たち自身がこれからの京都府の未来を考えていくために、活用されることを願っています。

第一章「歴史」から見た京都府

1　平安京遷都以前の京都の姿

（1）淀川水系と由良川水系

京都府の歴史・文化を語る上でも、淀川と由良川を考えることは大切である。

淀川は、鈴川流路延長七五㎞、流域面積八二四〇平方キロメートルの一級河川である。滋賀県山間部に発する大小の河川は琵琶湖に集まり、大津市から南に流れ、八幡市付近で、南丹市美山町の佐々里峠を水源とする桂川と青山高原（三重県）を水源とする木津川を合わせて大阪平野を西南に流れ、大阪湾に注ぐ。府内に置かれた都（恭仁宮）、（長岡京）及び（平安京）は、いずれもこの淀川水系の恩恵を被って設置された。

宇治川、桂川、木津川の三川合流部付近には、かつて巨椋池という大きな池が存在していたが、繰り返される洪水の対策等のために、宇治川の左岸沿いに堤防を築いて分離し、一九四一（昭和十六）年には大規模な干拓を行い、農地化され、戦後の食糧増産に寄与した。

一方、由良川は、その源を京都府、滋賀県、福井県の境の三国岳（標高九五九m）に発し、芦生の原生林を抜けて山間部を西流し、高槻川、上林川などを流して、綾部市、福知山市を経て、土師川との合流点で北方へ流れを転じ、福知山盆地を流下した後は、福知山市北部、舞鶴市を流下し、舞鶴市と宮津市の境を流れ宮津湾に注いでいる。

由良川流域は芦生の原生林をはじめ豊かな森林を保有する山地が占めており、その割合は約八九%となっている。由良川は鈴川流路延長一四六㎞、流域面積一八八〇平方キロメートルの一級河川である。

この章では、京都府の歴史を見ていきたい。

（授業のために）

自分たちの暮らしている地域はどちらの水系に属しているか、調べさせてみよう。（小学）

川は、人々の生活にどのような役割を果たしているか、身近な川の歴史を調べさせてみよう。また、川と水害について調べさせてみよう。（小中）

文明・文化の発祥と川（水）の関係について、考えさせてみよう。（高）

（京都府の二つの水系）

授業のために

「由良川流域マップ」を作成させて、流域マップなどについて調べさせ、川の重要性に気づかせよう。また、環境問題との関係についても考えさせてみよう。（全）

ITECに掲載しています

京都府　歴史　伝統　文化　学ぶために　検索

- ◆「歴史」、「文化」、「地域の特質」の3つの面から、京都府について記述しています。
- ◆上段に本文を、下段に「授業のために」という活用のヒントを設けました。
- ◆本文に関連する興味深い事柄やタイムリーな情報などを「コラム」として節末に掲載しました。
- ◆府内の主要な文化施設の情報や年中行事などの資料も充実しています。

連載　－ICTの活用－

第6回　ICT活用の効果　～「授業でのICT活用講座」報告～

１０月２０日（月）に「授業でのICT活用講座」を実施しました。その内容を２回にわたって連載します。

今回は、受講者の感想からICT活用の効果や実践している学校の様子を報告します。

大阪教育大学木原俊行教授の講義では、ICT活用の「効果」について、考えを深めました。

習得型の授業でICTを活用することで、**より分かりやすい解説**ができたり、**集中力を持続**させたり、**効率よく指導**できたりするということが、ICT活用の「基礎的効果」であることがわかった。

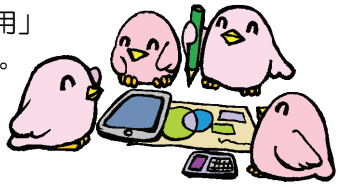
ICT活用の実践発表の時間も設けました。

陸上競技の十種競技で、どの競技の相関関係が強いのかを調べさせるという高校の実践発表があった。生徒が結果を**予測・検証していく過程で思考力を働かせる**ことができ、「本質的効果」のある実践だと思った。

その後、校種毎の班で実践交流をしました。

漢字の書き順、体育の立ち幅とびのフォームの指導、算数のフラッシュカードなど、活用しようと思えば**あらゆる教科においてICT活用が可能**であると知った。

ICTをどのように活用していけるかを話し合う中で、具体例をたくさん共有することができた。活用のポイントは**「簡単に作成」「何度も繰り返せる」「全員で共有」**だと思った。

ICTを積極活用している学校は、**完璧に整備が進んでいるわけではなくて**、それぞれで**できる範囲で最大の取組**をされていることがわかった。工夫や試行錯誤が参考になった。

次回は、
「これからのICT活用」
について掲載します。